

# とりの声

No.

32



佐久の森林と林業  
2013年3月発行



## 次世代につなぐ森づくり

目次

contents

- 2 林業専用道の開設進む
- 3 高性能林業機械の導入により進む間伐作業
- 4 健全な森林を次世代に引き継ぐために
- 5 ニホンジカ誘導ネットによる新たな捕獲技術の取り組み、放射性物質について
- 6 南牧村の復旧治山事業が終わります
- 7 トピックス
- 8 H25ふるさとの森づくり県民の集い、長野県産J-VERクレジットについて



みしょう

### 「実生のカラマツ林」

これらのカラマツの若木は人が植えたものではありません。周りにあるカラマツから落ちた種が発芽し成長したものです。若木の生育している区域は約0.3ヘクタールほどですが、これほどまとまった光景は大変珍しいものです。

佐久地域のカラマツ林の多くは、昭和30年代をピークに植えられた人工林で、現在、木材として利用可能な50年生以上となっています。

長野県では、このような人工林において必要な間伐を進めつつ、木材として積極的な利用を行うとともに、計画的に次世代への更新（再造林）を行うなど「みんなの暮らしを守る森林づくり」に取り組んでいます。

